



丸ボーロ
丸屋菓子店

丸ボーロは5個370円とお手頃。散策途中のおやつにも、お土産にもOK!



遠りからは平戸城が見える!

まずは 素朴なお菓子と 民芸品と。

古

くからの町並みを生かした建物が並ぶ平戸の商店街。港近くのこのメイン通りからは時折、通りと通りの間から平戸城を望むことができ、城下町らしい風情が漂う。

まず立ち寄ったのは「丸屋菓子店」。店の窓に大きく貼られた「丸屋名物 丸ボーロ」の文字に興味を湧き、つい足を踏み入れた。こちらの丸ボーロはサクッとした堅めの食感ながらも、噛めば噛むほど味わい深く、素朴なおいしさが口いっぱいに広がる。丸ボーロのルーツもポルトガル。店では数種類の小麦粉を配合し、昔ながらの製法でその味を伝えていた。

丸屋菓子店のすぐそばにある「篠屋」は、

平戸の民芸品や手作りの小物を扱うお土産屋。もとは海産物の問屋だったという築九十年を超える建物の中には、所狭しと商品が並んでいる。中でも目をひいたのは「マキ人形」と呼ばれる魔よけの木の人形。平戸の市木でもあるマキの木を使って、猿田彦（日本神話に出てくる神）の顔を店主自らが一刀彫って作っているそうだ。「マキ人形は昔からあったのですが、いつしか廃れてしまっていたのを、私の主人が復活させたんですよ」と教えてくれたのは、妻の篠崎育子さん。育子さんは、店で販売しているまゆ玉や布製の飾り物などを製作しているほか、平戸のまちづくりにも熱心な様子。「毎月第四日曜日には、『平戸ゾンダグ』といって、商店街の仲間とオランダの民族衣装を身に付け、観光案内をしています。ぜひ、またいらしてくださいね」とニコリ。平戸のまち歩きは、こうした人たちとの出会いも楽しい。

※ゾンダグとはオランダ語で「日曜日」や「休日」の意味。

平戸は歴史が深く、楽しいまちです。ぜひ遊びにいらしてくださいね。



篠屋を営む篠崎育子さん



篠屋
マキ人形



店に吊り下げられているカラフルで楽しいまゆ玉



平戸 城下町 お菓子めぐり

